



釜小だより

2026年 8月31日
横浜市立釜利谷小学校
9月号



学校ホームページ <http://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/kamariya/>



～「できた!」のそばに、仲間がいる～

校長 荒井 宏明

長い夏休みが終わり、子どもたちの元気な声が学校に戻ってきました。まだまだ厳しい残暑が続いていますが、久しぶりに子どもたちの笑顔に出会い、学校にも活気が戻ってきたことをうれしく感じています。登校してきた子どもたちは、夏休みの出来事をこぞって話してくれました。「〇〇ができるようになりました!」「〇〇をつくったよ」「〇〇をがんばりました」。少し誇らしげに話す表情からも、それぞれが充実した夏休みを過ごし、一回り成長したことが伝わってきます。私も小学校の頃を思い出してみると、生き物が好きだったのでよく昆虫を採ったり観察したりしていました。セミのさなぎが羽化する様子を写真に撮りながら観察してまとめ、自由研究として得意げに学校へ持っていきました。当時は、カメラで撮った写真のフィルムを写真屋で現像してもらっていたので、しっかりと写真に写っているかドキドキしながら待っていたものでした。

日頃、各学級を回っていても、子どもたちは自分の「できた!」をよく伝えてくれます。「育てていたトマトに実がなりました。おいしいので校長先生も食べてみてください。」と満面の笑顔で話してくれたり、算数の時間には「全部の問題に丸をもらえました。」と誇らしげに教えてくれたりします。「すごいね。」「がんばったね。」と声をかけると、さらに笑顔があふれます。自分の努力や成長に誰かが気づき、認めてくれることが、次の挑戦への力になるのでしょうか。私たち大人も、「できた」という結果だけでなく、そこに至るまでの努力や工夫、諦めずに取り組んだ姿に気づき、言葉にして認めていきたいと思います。

誰しも努力してできるようになったことは、誰かに伝えたいものです。今は SNS などを通して「いいね」をもらい、喜びを共有することもできます。一方、学校には、がんばる過程をそばで見てきた友達だからこそ届けられる言葉があります。真剣に取り組む姿や、悔しがる表情も知っているからこそ、「すごいね」「がんばったね」という言葉には実感がこもります。認められた子どもにとっても、その言葉は大きな喜びとなり、次の一歩を踏み出す力になります。これこそ、人と人とが集い、共に学ぶ学校の大切な役割の一つではないでしょうか。もちろん、挑戦すれば、いつもうまくいくとは限りません。だからこそ、成功と一緒に喜ぶだけでなく、「うまくいかなかったね。でも、またやってみよう」と励まし合える学校でありたいと思います。失敗しても大丈夫と思える温かな雰囲気があれば、子どもたちは安心して新しいことに挑戦できます。

「できた!」と一緒に喜び、挑戦する姿を応援し、時には失敗も受け止め合う。そのような仲間がいることも、学校で学ぶ楽しさの一つです。これからも、一人ひとりの小さな挑戦をみんなで応援しながら、もっと「楽しい わたしの学校」にしていくことができるよう職員一同努力してまいります。

9月 生活目標

人の話をよく聞き、落ち着いて行動しよう ・正しい姿勢で学習し

学納金についてのお知らせ

9月4日(金)が学校納入金2回目の引き落とし日となっております。口座残高のご確認をお願いいたします。なお、残高不足の場合には、18日(金)が再引き落とし日となっております。